

明日に架ける橋

2024年度 進路だより 第6号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2024年11月15日発行

推薦型選抜入試の山場です

9月には指定校の校内募集が行われました。昨年までは1回限りでしたが、今年は1次募集が9月第1週、1次募集で空きが出た学校については第2週に2次募集を行いました。

夏休みの3者面談で第1志望校を担当の先生が確認していましたので、第1志望のみ出願希望を認めるという規定のもとで希望を受け付けました。特に明石高校生の進学希望が多い、いわゆる関関同立(関西学院・関西・同志社・立命館大学)は非常に高い競争率になりました。全ての出願者に対して、調査書評定・模試成績・部活動状況・特別活動・欠席遅刻状況・進路希望・人物など多方面を長時間に渡って、慎重審議しました。その結果、4年制大学63名(うち関関同立20名・甲南大学9名)、専門学校4名が校内推薦されることになりました。

校内で推薦された生徒は、いずれも一般選抜で受験しても合格可能性の高い生徒ばかりで、調査書評定平均(通知簿の評価)と模擬試験の成績の相関関係が高い、ことが改めてよく判りました。

国立大学の学校推薦型選抜の受験希望者の校内推薦会議も、9月下旬に行いました。多くの大学が共通テストを課していますので、調査書と共通テストの総合判定になります。実際には共通テスト重視の大学が多いですから、一般選抜と同様の受験勉強をしっかりと継続しましょう。

また総合型選抜入試はすでに開始されている学校が多く、第1志望校にチャレンジした3年生もいます。多くの大学が3～5倍という高倍率になっていますが、頑張っ合格を勝ち取った知らせも届いています。関関同立レベルでも合格者が出ており、やはり高い評定平均値が評価され、3年間のしっかりした学習の成果が進路実現につながっています。

専門学校志望者の中には、高い評定平均値が評価され、入学金免除・授業料免除というとても親孝行な結果を出した人もいます。1・2年生の皆さん、自分の進路を明るく開けるために、普段の授業を大切にしましょう。

まもなく、学校推薦型選抜の公募制推薦入試の受験ピークを迎えます。公募制推薦を受験する3年生は、学年の先生方から十分指導されていると思いますが、今一度、下記の注意事項をよく確認してください。

学校推薦型選抜入試を受験する人へ

①過去の面接試験・小論文試験の内容をよく調べて対策を取りましょう

過去、明石高校の先輩が受験した受験報告書を、学校ごとにまとめて、ファイリングしています。昨年までは、パソコン内の報告書を一人ずつ順番に調べるという不便な状況でしたが、今年度からは何人もが同時に調べることができるようになりました。私立・国立大学共にありますので、進路指導室へ見に来てください。

写真撮影は不可ですが、メモは自由に取ってください。受験校がファイルでない場合は進路指導室の先生に尋ねてください。また受験校だけでなく、他大学の同系統学部の報告書も参考になります。詳しく調べて、対策を取りましょう。

また、全国の大学の面接・小論文の情報が、ベネッセから提供されています。ぜひ活用してください。利用方法は、進路指導部の先生に問い合わせてください。

②政治・経済の情報をチェックしましょう

面接では社会情勢に関心があるかどうかをよく聞かれます。日ごろから新聞やネットニュースに目を通し、社会人として必要な政治・経済の動向に目を向けましょう。特に商経系統の学部を受験する人は、面接のみならず小論文の内容として出題される

可能性もありますので、注意が必要です。

③受験報告書の提出を忘れずに

明石高校の先輩方の受験報告書のおかげで、不安なく受験できたと思います。受験が終わればすぐに、受験報告書を必ず担任の先生に提出してください。加えて、調査書や推薦書を書いてくださった担任の先生、面接や小論文・自己推薦書の指導でお世話になった先生に口頭で報告をすることは、高校生のマナーとして当然のことです。

合否が判明したらすぐに、同様の報告をしてください。先生方は、皆さんの合否を大変気にかけています。社会に出れば、このようなマナーは常識ですので、今きちんとしておくようにしておいてください。

④問題の提供もお願いします

受験後、持ち帰りが可能な問題、その他資料も、後輩への情報としてぜひ提供してください。書き込み等があるものでかまいません。進路指導室でコピーを取って、原本はお返ししますので、よろしくお願いします。

⑤本命は、一般選抜ですよ！

これもずっと言われ続けていると思いますが、公募制推薦を受験する人も、本命は一般選抜です。第一志望校を公募制で受験するのは、チャンスを増やしてよいのですが、注意してほしいことがあります。

先日、進路指導室に来られた、ある受験業者さんからの情報は次の通りです。「阪神・神戸・播磨地区の公立高校の文系では、関西学院大学や甲南大学の志望者が多い。ただ甲南大学の公募制入試は、関学レベルの英語・国語の力がないと合格は難しい。甲南の公募制に不合格の受験生でも、秋に歴史科目をしっかり勉強していれば、2月の一般選抜で合格した例が多々ある。」とのことでした。第1志望の公募制推薦に受ければラッキー！ぐらいの気持ちで受験して、一般選抜に向けての勉強を途切れさせないようにしてください。

さらに「少子化の影響でどの大学も合格ラインの受験生の学力は10年前と比べてかなり落ちてるので、高校の授業を大切に勉強すれば、難関校も合格する。」とも言われていました。3年生は、1学期の終わりにこのような話を進路講話で講師の先生から聞いたと思います。1・2年生の人は、このことをしっかりと頭に入れて、予習を大切に、授業に臨みましょう。

進路が決定した人へ

目標進路は決定した人(合格通知を受け取った人)が、いかに最後まで頑張るか、は自分のために当然大切です。以前にも伝えたように高校の調査書は卒業時や卒業後も必要なことが多くあります。進路決定時より、成績が下がれば自分に不利益になります。

また これも以前にも記しましたが、「受験は団体戦」です。進路決定の人たちの勉強する雰囲気(授業に臨む姿勢)がクラスのマードをよくします。実際、2学期にクラス全員(進路決定者も含めて)がすごく前向きに授業を受けている、と感じられたクラスの間期考査平均点は、やはり高かったです。このクラスの3月の進路決定状況が、非常に楽しみです。77回生3年生308名が力を合わせて、受験に挑みましょう。



『ハウレンソウ』という言葉を知っていますか？ 野菜ではない「ハウレンソウ」です。社会に出れば、組織で最初に言われる言葉かもしれません。例えば会社では、上司への「報告(ハウ)」・「連絡(レン)」・「相談(ソウ)」が必要です。これによって社内の秩序が保たれ、スムーズな組織運営が可能になります。上で「ハウ」について述べましたが、「レン」「ソウ」も意識して、進路関係だけでなく、また学校や職場だけでなく、家庭や友人などとの共同体でも「ハウレンソウ」を心がけて、良いコミュニティを作りましょう。

